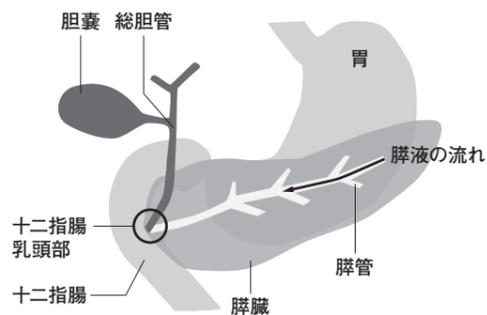


Q2 どうして急性膵炎が起こるのでしょうか。

急性膵炎が起こるしくみ



膵管は、十二指腸乳頭部で総胆管と合流します。ここに胆石がつまったり、アルコールの影響で膵液の流れが滞ったりすると、膵管の内圧が上昇し、急性膵炎を招きます。急性膵炎にはアルコール性、胆石性のほかに、原因不明の特発性などもあります。

A 男性はアルコール性、女性は胆石性が多い

主な要因は、お酒の飲みすぎと胆石です。男性はアルコール性膵炎、女性は胆石性膵炎の発症が多くみられます。

▼飲酒
酒量が多くなるほど、発症リスクが高くなるとされています（急性膵炎診療ガイドライン2015）。お酒を飲むと膵液の分泌が高まりますが、なぜ急性膵炎が起こるのかはよくわかっていません。アルコールの影響で膵管の出口（十二指腸乳頭括約筋）が痙攣し、膵管の内圧が上昇することによって膵液の活性化が起こる、アルコール

が分解されてできる有害物質がタンパク質消化酵素を活性化するなど、さまざまな要因が考えられています。

▼胆石
胆石は胆汁の成分が固まったものです。胆汁は食物が胃から十二指腸に送られてきたときに、胆管を通過して十二指腸に分泌されます。胆管と膵管は十二指腸乳頭部で合流するため、この部分に胆石がつまると膵液が膵臓にたまることも、胆汁が膵管に流れ込み、膵液中のタンパク質消化酵素の活性化が起こると考えられています。

Q3 急性膵炎の診断と治療について教えてください。

知っておきたい

「慢性膵炎」

慢性膵炎とは、膵臓の正常な細胞が壊れ、繊維化や萎縮が起こる病気です。要因は男性では飲酒、女性では原因不明の特発性が多くみられます。初期には上腹部痛が現れますが、進行すると逆に軽くなります。しかし、徐々に膵臓の機能が低下し、消化不良をとまなう下痢や体重減少、糖尿病の発症や悪化などが起こります。

慢性膵炎のある人は膵がんを発症するリスクが高くなることがわかっているため、早期発見が重要です。よくお酒を飲む人、急性膵炎を経験したことのある人、原因のわからない慢性的な腹痛がある人、健康診断の血液や尿検査でアミラーゼなどの消化酵素の値が高かった人などは、定期的に膵がんの検査を受けることをおすすめします。

A 食事や水もいっさい禁止、点滴と薬物療法を基本に

腹痛を起こす病気はたくさんあるため、診断には問診といくつかの検査が必要です。急性膵炎では血液中や尿中の消化酵素濃度が高くなるため、血液検査や尿検査が行われます。さらに、腹部超音波、CT、MRIなどの画像検査で膵臓の状態を観察します。急性膵炎を起こしている膵臓は腫れ上がり、膵臓の周辺に炎症性の変化が見られます。軽症の場合でも、1〜2週間程度の入院が必要になります。絶対食して膵臓を安静に保つ、点滴で水分や栄養を補給する、タンパク質分解酵素阻害薬を用い

て酵素の活性を抑える、鎮痛剤で痛みを和らげるなどが基本の治療法です。胆石が原因の場合は、胆石の治療も行います。重症と判定された場合は、ICU（集中治療室）管理や専門的な治療ができる病院で治療を行い、入院は1カ月から数カ月におよびます。重症化すると膵臓が壊死し、炎症がほかの臓器にも広がるため、重症例の約10%は死に至ります。基本的な治療に加え、必要に応じて血液浄化療法や抗がん剤の投与、膵臓の壊死した部分を切除する手術などを行います。

教えて
ドクター!



知っておきたい 健康相談室

飲酒と胆石が2大要因

急性膵炎

お酒好き、脂っこい食事が好きな人に多い病気のひとつが、急性膵炎です。突然起こる激しい上腹部痛（みぞおちからへそにかけての痛み）が特徴で、重症化すると命にかかわることもあります。忘年会、新年会などお酒を飲む機会が増えるこれからの季節に備え、急性膵炎を招く要因や発症するしくみ、検査や治療法などを知っておきましょう。



監修 片山裕視

かたやま やすみ
獨協医科大学埼玉医療センター
内視鏡センター長・学内教授
1991年群馬大学医学部卒業。国立立川病院、国立病院東京災害医療センターなどを経て2017年から現職。日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医。日本消化管学会胃腸科専門医・指導医。内視鏡による消化器悪性疾患の診断と治療に取り組んでいる。

Q1 急性膵炎とはどのような病気ですか？

A 膵液の消化酵素が膵臓を消化してしまう病気

急性膵炎は、膵液に含まれている消化酵素によって、膵臓そのものが消化されてしまう病気です（自己消化）。膵液には、炭水化物を分解するアミラーゼ、タンパク質を分解するトリプシノーゲン、脂肪を分解するリパーゼなどの消化酵素が含まれています。食べたものは胃から十二指腸に送られますが、このときに膵臓に指令が送られ、膵液を十二指腸に分泌します。アミラーゼとリパーゼは膵臓にあるうちから消化酵素として機能をもっていますが、トリ

プシノーゲンなどのタンパク質消化酵素は膵臓内では働きません。十二指腸に分泌され、腸から分泌された酵素の作用でトリプシノーゲンはトリプシンに変わり、この段階で初めて消化機能が働くようになるのです。これを活性化といいます。このタンパク質消化酵素が何らかの原因により膵臓内で活性化し、膵臓を溶かし始めることがあります。こうして引き起こされるのが急性膵炎です。近年、患者数は増加傾向で、男性は女性の約2倍多く発生しています（厚生労働省調べ）。

主な症状



症状は、多くの場合、お酒を多量に飲んだり、脂っこい食事をしたりしたときなどの数時間後に起きます。そのため、就寝中や明け方に痛み始めるケースが少なくありません。